

凛々しく ～附属小温故創新～

2018/4/5 No. 63

桜満開！平成30年度のスタートに向けて～指導の目線を揃える大切さ～

それにしてもこんな春は初めてです。

子どもたちが新学期を迎える前に北門（校舎裏駐車場）の桜が満開を迎えました。

この桜の木は附属小に勤務した経験のある先生方にとっては特別の意味をもつ木です。それは、毎年、この桜の木の枝そして桜の花びらに抱かれるように学級集合写真を撮るのが「慣例」だからです。今年に限っては子どもたちと担任の先生方が集合写真を撮る頃は、いつもと違った風景になるかもしれません。

また昨日、これも「恒例」となりつつある日本人学校へ旅立つ同僚の壮行会が仙台駅構内の新幹線プラットホームで行われました。いつの間にか驚くほど大きな横断幕が準備され、佐竹先生の気合いの入ったエールが鳴り響きました。昨年の伊藤先生に続いて今年も上海の日本人学校に菅原淳先生が旅立ちました。間近に海外での勤務に挑戦しようとする同僚を見ていて（いつか自分も！）という気持ちが職員の中に芽生えているように思えます。

駅では淳先生のお母様から丁寧なご挨拶をいただきました。最後まで新幹線の窓から離れなかった淳先生のお母様の姿を見ていて、そのお気持ちがとても伝わってきました。

さあ、平成30年度のスタートです。

先日の職員会議で指導部から「児童の生活にかかわる共通理解事項」が示されました。ポイントは全職員で共通理解を図り、共通行動をとること、**指導の目線を揃えること**、です。

改めて12項目に目を通してみると、ここに附属小の教育活動を支えている潜在的なカリキュラムが存在していることに気がきます。昨日、基本実習を迎える3年次の学生への事前指導で「実習の手引き」を参照しながら「子どもと遊ぶこと、そして給食指導や清掃指導がしっかりできること」が学級づくりや授業づくりに直結することを話しました。多くの学校では生徒指導主任が中心になって取り組むことですが、附属小の底力の源は指導部を中心に組織で一丸となって生活指導や生徒指導にあたることにあります。

月曜日、子どもたちは大きな期待を胸に登校してきます。子どもたちとの出会いは私たち小学校の教員にとって、最も大事な瞬間です。担任紹介では笑顔で子どもたちの前に立ち、学級開きではこんな学級にしたいという思いをどうか自分の言葉で熱く語ってください。そして、子どもたちの顔と名前をしっかりと覚え、できるだけ早く子どもたちとのレポートを作るように、朝の遊びでたくさんの時間を子どもたちと過ごしましょう。

